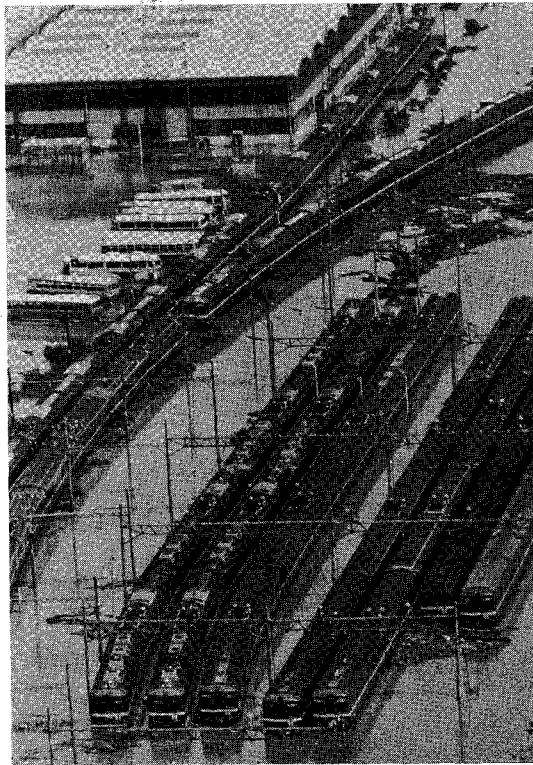
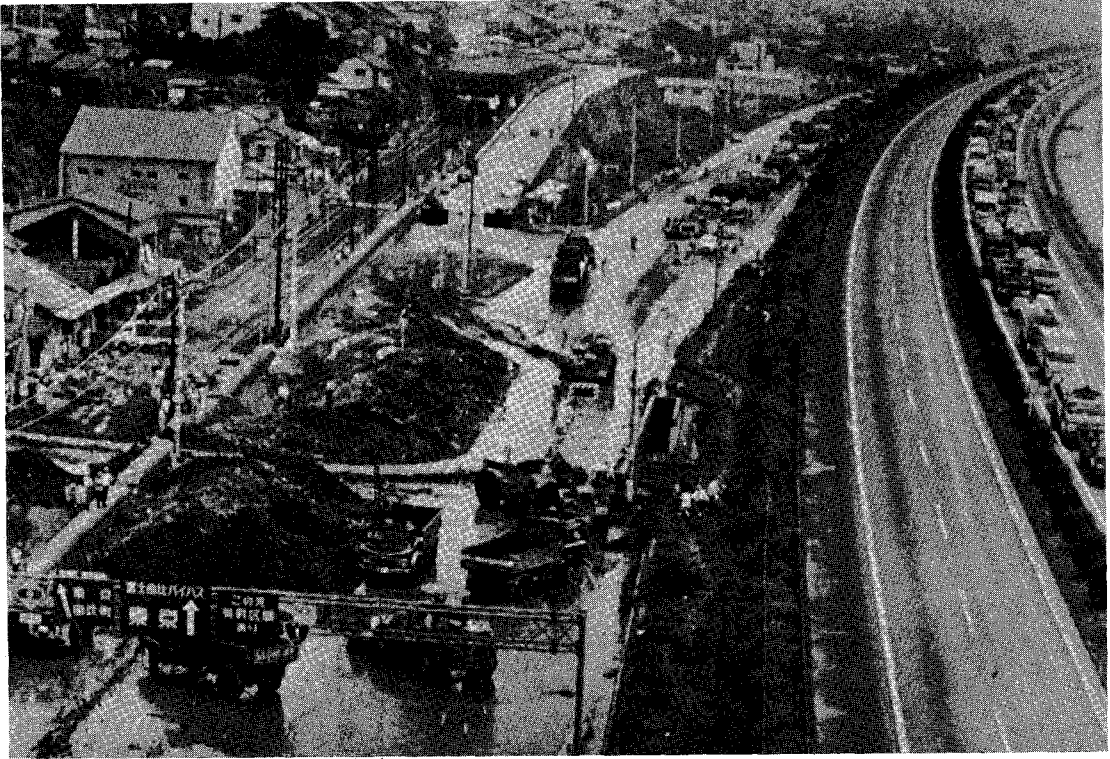
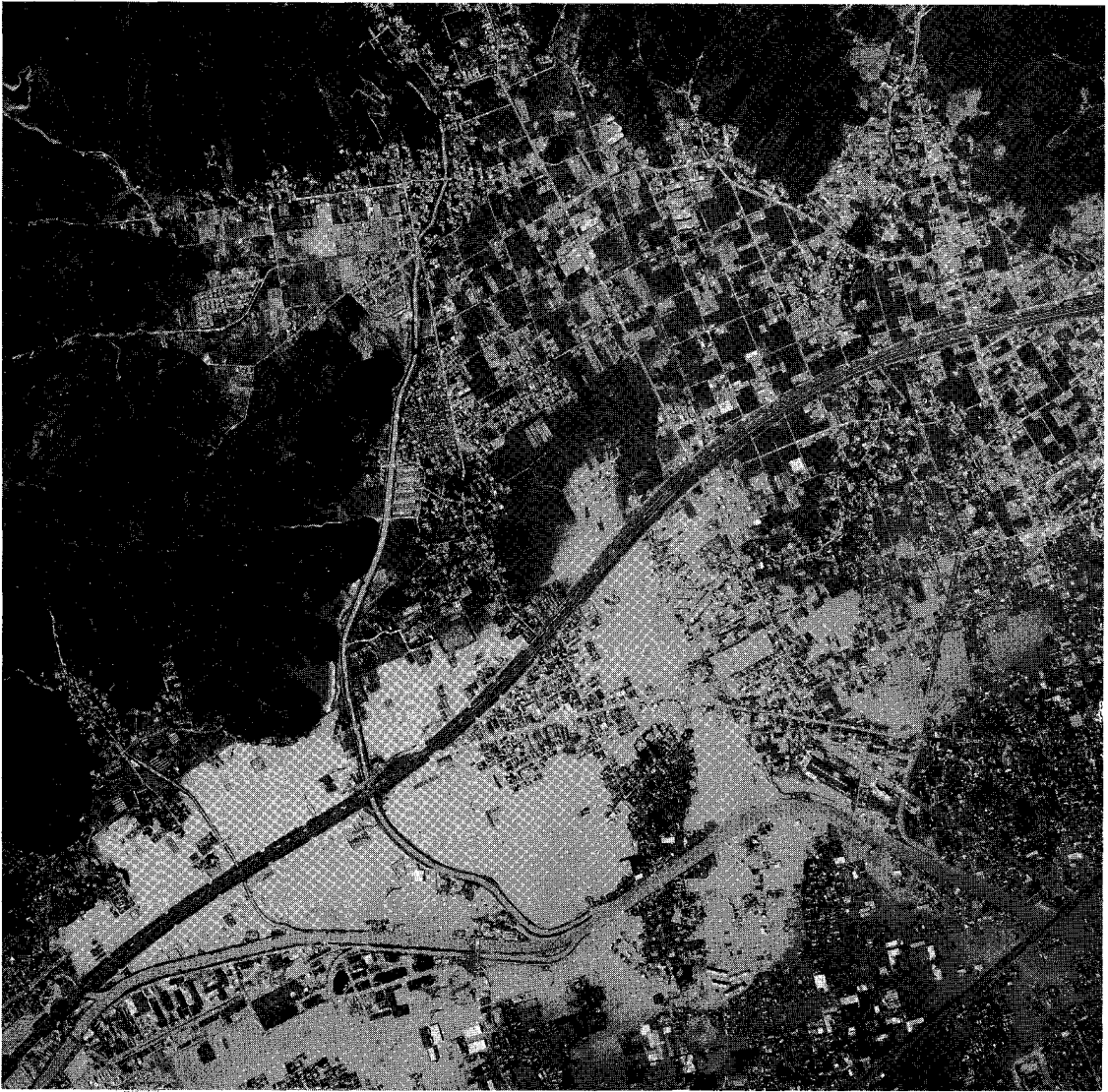


台風8号と梅雨前線豪雨の被害報告



本年7月7日夕刻から四国、中国、近畿、中部、関東の太平洋沿岸各地を襲った豪雨は各地に多大な被害をもたらし、7月30日開催の閣議では、国土庁長官から「台風8号と梅雨前線豪雨による被害を一本として、劇甚災害に指定する作業を急ぎたい」との報告が出されるに至った。

本報告によれば、死者・行方不明者136名、負傷者199名、建物の全壊・流失560棟、山（崖）崩れ7361か所、等で、公共土木施設、農地、中小企業関係、国有林などの被害額は約3506億円といわれている。死傷者らが多い割合にはこの種の災害は比較的批判も少いようであるが、「安全性」という基本にもどっての反省は忘れてはいけないことであろうと思われる。本文ニュース欄参照のこと。



写真説明

1. 静岡県由比地籍の被災状況。右から、東名高速道路、国道1号線、東海道線。7月9日、ヘリコプターから撮影。
2. 神奈川県久里浜地籍の被災状況。浸水におびやかされる京浜急行線。7月8日、ヘリコプターから撮影。
3. 静岡県清水地籍の被災状況。中央の東名高速道路右上の所が清水インターチェンジ。7月8日13時56分撮影。
4. 香川県小豆郡内海町地籍の被災状況。土砂崩れで破壊された民家。7月7日セスナ機から撮影。

写真提供・1, 2, 4 共同通信社

3 アジア航測株式会社

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってカードにはりつけて整理に供して下さい。

特集・都市廃棄物

会誌編集委員会

土木学会誌 第59巻第9号(8月号), pp. 2~48, 昭和49年8月(August, 1974)

近年, 都市活動の活発化に伴って, 都市が排出する廃棄物の量は急増の一途をたどり, かつ, 質も多種多様なものとなってきた。これらの都市廃棄物はいずれにせよ都市の生活活動の中に取り入れてゆかなければならないものであるが, その方法の適・不適によっては, 都市そのものの機能が止まってしまう危険すらもっている。そこで, 明日の都市をつくりゆく過程で大きな役割をになつてゆかなければならない土木技術者として, これら都市廃棄物の現状と課題等を知っておくことは急務であると考え, 特集記事をとりまとめた。

<次葉へ続く>

本特集の目次構成と執筆者は次のとおりである。

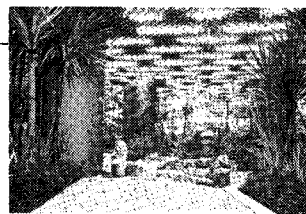
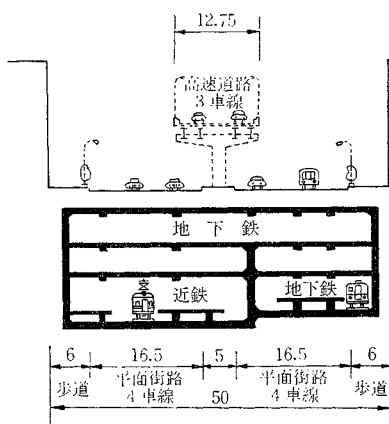
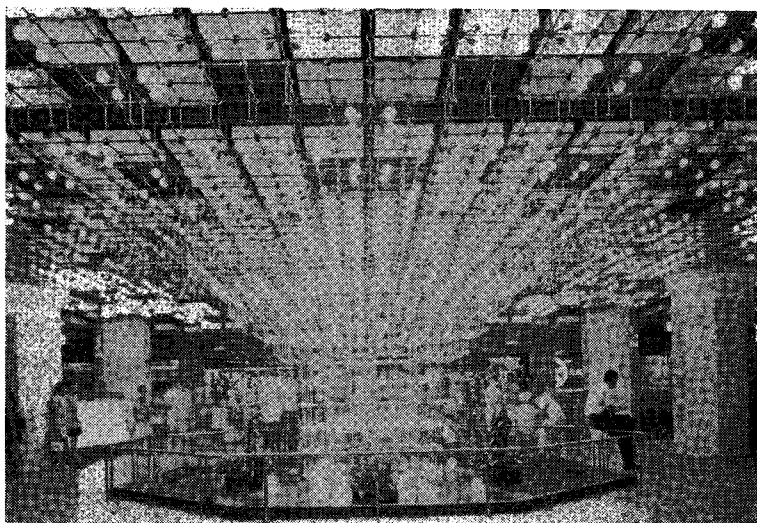
1. 廃棄物にうずもれる都市(石橋多聞), 2. 廃棄物の処理・処分, 有効利用の技術(① 深水正元, ② 大島文彦, ③ 横田勇, ④ 豊島修), 3. 都市の機能と廃棄物問題(① 左合正雄, ② 末石富太郎/大西義昭/三宅一馬), 4. 廃棄物処理行政の課題と展望(柴田徳衛), 5. コラム(和田一郎・野中徹一・花嶋正孝・川口土郎)。

淀川水系の渇水とその対策

星畑 国松・上野 昇三

土木学会誌 第59巻第9号(8月号) pp. 51~58, 昭和49年8月(August, 1974)

人口の都市集中や産業構造の変化等により, わが国の水問題も近時大きな関心を呼ぶようになった。本文は, わが国の代表的な河川である淀川の48年における渇水実態とその対策等を述べたものである。1. まえがき, 2. 淀川の渇水の特徴, 3. 淀川の渇水対策上の問題点, 4. 淀川の水利用, 5. 昭和48年の水文状況, 6. 渇水対策の経緯, 7. あとがき, の7編からなっている。



※ 今月の表紙 ※ ミナミ地下センターの光の広場（上）と緑の広場（右上）の写真と、千日前通り（泉尾今里線 千日前付近）標準断面図。

上から、高速道路、平面道路、地下道、軌道施設（市営地下鉄、近鉄）。昭和45年3月完成。

豊かな人間生活をもとめて

荷重履歴による強度劣化を伴う 構造物の信頼性理論

小池 武 (京都大学)
亀田 弘行 (京都大学)

[土木学会論文報告集 第 228 号, pp. 1~11, 1974 年 8 月]

従来の信頼性理論においては、くり返し荷重に対する構造物の信頼性に関して、ある本質的な問題が、未解決のままに残されている。たとえば、構造物が、強震地震動のような大荷重をこうむって生き残ったとき、内部損傷を受けて、その抵抗強度は、強度劣化を生じるであろう。そのような構造物の挙動に対する信頼性理論を確立するためには、二つの異なる効果を評価しなければならない。一つは、非破壊効果であり、他は、強度劣化効果である。前者は、構造物の抵抗強度の下限を保証するものであり、信頼性の向上につながる。後者は、作用荷重の大きさに依存する強度劣化を生じる結果、信頼性を低下させることにつながる。

従来までの理論では、構造物の抵抗強度が十分に大きく、強度劣化を生じないものとして、抵抗強度の確率分布を不変とした解析や、抵抗強度が、荷重の作用回数

みに従って一方的に強度劣化を生じる場合の解析が提示されたにすぎない。A.H.-S. Ang and M. Amin が指摘した危険率の単調減少性も、2つの効果を見逃した解析結果によるものである。

荷重環境が、特に、ランダム性を強くもつときは、上記の解析方法では、構造物の信頼性の評価が、過大評価または過小評価される危険が非常に大きい。特に、地震荷重のような場合には、そのランダム性が著しいため、荷重の大きさに依存した強度劣化を考慮した解析が要請される。

本研究では、上述の二つの効果を忠実に評価するために、まず、2種類の強度劣化パターンを想定し、それに従って、残存強度の確率分布を初期抵抗強度の確率分布から誘導した。信頼性パラメータが、新たな形で定義された。

この理論は、構造物が、耐用期間中のすべての大荷重に対して安全であるための安全率の決定や、過去に既知の大荷重を受けた構造物の将来の信頼性の予測など、構造設計法の基礎として有力な役割を演ずることができるであろう。

補剛材つき板の弾性ならびに 非弾性圧縮座屈強度

宇佐美 勉 (岐阜大学)

[土木学会論文報告集 第 228 号, pp. 13~28, 1974 年 8 月]

この論文は箱形断面柱を構成するリブつき板の局部座屈強度を明らかにすることを目的としたもので、純圧縮を受ける四辺単純支持の縦方向補剛材つき板(補剛板)の弾性ならびに非弾性座屈強度の数値計算結果について述べたものである。解析には有限帯板法を用い、特に補剛材のねじり剛性ならびに溶接による残留応力の影響について詳細な考察を行っている。

等間隔に配置された矩形断面補剛材をもつ板の解析から得られた主な結論を述べると次のようである。まず、残留応力を無視した弾性座屈に対しては、

- (1) 補剛材のねじり剛性を考えた解析は、それを無視したときの補剛板の座屈と補剛材単独のねじり座屈を連成座屈として捉えていることになる。したがって、この解析から得られた座屈解は、補剛材の幅厚比に関係なく常に真の座屈解を与え、補剛材のね

じり剛性を無視した場合の座屈解より上昇もするし低下もする。

- (2) 補剛材のねじり剛性を考慮すれば、補剛板の座屈係数をそれを無視したときの値の 1.355 倍まで高めることが可能である。

- (3) 補剛材の幅厚比ならびに曲げ剛比に制限をつけられれば、補剛材のねじり剛性による座屈強度の上昇を常に期待できる補剛板の設計方法が可能となる。が得られた。

次に、残留応力を考慮した非弾性座屈に対して得られたことは次のようなことである。

- (1) 平均座屈応力が降伏点応力近辺にある補剛板は、残留応力の大きさ、補剛材の本数、補剛材の剛度に無関係にその幅厚比が定まり、それは無補剛板の幅厚比にほぼ等しい。
- (2) したがって、平均座屈応力が降伏点応力に達するために必要とする補剛板の幅厚比は、わが国の道路橋示方書(1972)ならびに、鋼鉄道橋設計標準(1970)で期待している値より大幅に低下する。

水底および水面付近の任意断面の 固定柱状体による波の散乱と波力

井 島 武 士 (九州大学)
湯 村 や す (九州大学)
周 宗 仁 (九州大学)
吉 田 明 徳 (九州大学)

[土木学会論文報告集 第 228 号, pp. 29~43, 1974 年 8 月]

本論文は任意の断面形状をもつ柱状体が水深一定の海底または海面付近に鉛直に固定されているときに、一定周期の正弦波が入射することによる波の散乱と柱状体に作用する流体力を解析的に求める方法を述べたものである。

柱状体が円柱の場合あるいは水平軸をもつ矩形断面物体に波が入射する 2 次元問題についてはすでに解析されているが、柱状体の断面が円以外の場合についての具体的な解析例は未だ示されていない。

本論文においてはまず柱状体の断面を幾何学的境界面 D として、その外域と内域の、流体運動の条件を異にする 2 つの流体域の速度ポテンシャルを深さ z に関する直交関数系により級数展開を行い、その各項の係数を平面

的位置 (x, y) の関数として表わす。これらの係数はそれぞれ独立に Helmholtz の方程式を満足するから、Green 関数を用いて境界 D 上の係数値とその法線微分値により与えられることになる。そこでこれらの係数値と微分値の間に成立すべき数学的条件式と境界 D での力学的条件式とから、これらを決定すべき連立方程式を導き、これを数値的に解くことによって速度ポテンシャルを確定するという方法を展開している。

この解析法は速度ポテンシャルの接続法を Green 関数を用いて一般形状の柱状体に関する 3 次元問題の解法に拡張したもので、本論文では例として海底に固定された全没水および海面に固定された半没水の円、楕円および矩形の柱状体に関する波高分布および流体力の計算結果を示している。円柱については円柱座標におけるポテンシャル接続法による厳密解と比較して、この論文の計算法の妥当性を示し、楕円および矩形については、形状の相違と柱状体の没水深さによる相違を計算結果により示している。

この解析法は水中あるいは水面の海洋構造物に関する工学的問題を解明するに用いられ、またさらに水面に浮ぶ種々の形の浮体の一般的な運動を解析するにも応用される。

カルマンフィルタと多変量解析を 組み合わせた確率過程の予測法

日 野 幹 雄 (東京工業大学)

[土木学会論文報告集 第 228 号, pp. 45~54, 1974 年 8 月]

制御理論や多変量解析の手法は、広い分野で応用されるようになった。

しかし、これらの手法の性格はかなり異なっていて、因子分析や回帰分析は“静的予測法”であるのに反し、カルマン理論に代表される現代制御理論は“動的予測法”といえる。

また、前者は長周期の変動予測に、後者は短周期の変動予測に適している。

本論文では、これらの手法の相違点と等質性を検討したのち、それぞれの手法の長所を取り入れ、互いに組合せて、精度の高い確率過程の予測法として KARFA 法 (Kalman Filtering Combined with Regression and Factor Analysis) を提案した。

この方法では、まず予測すべき変数とそれに影響する変数に因子分析を行い、変数の次元を縮小する。

しかるのち、過去のデータより両者間の回帰関係式を導く。

時々刻々のオンライン予測では、回帰式よりの予測値と実測値との残差についてカルマン・フィルターにより細かな変動の予測を行う。

最後に、簡単な例を示し具体的解説を行った。

次に本論文の目次を示す。

1. 序 論
2. 新しい予測法構成のための考察
 - (1) 制御理論と回帰分析の併用による予測法
 - (2) 因子分析法を併用した回帰分析法
3. 制御理論と多変量解析を併用した予測法 (KARFA 法)
4. 例 題
5. 結 論

河川における生物学的な水質判定と 理化学的水質調査

安田 正 志 (富山県立技術短期大学)
中村 郁 子 (富山県立技術短期大学)

〔土木学会論文報告集 第228号, pp. 55~64, 1974年8月〕

河川の水質汚濁調査は、一般に理化学的調査あるいは生物学的調査の方法によって行われている。この両方法にはそれぞれの特質があり、水質汚濁の解明あるいは、水質規制やモニタリングにおいては、将来は相補い合う形で総合的に行われるようになると考えられる。しかし現在のところ、これらは多くの場合別個に行われており、その両方法が、いかなる関連性と意義を持っているかについてはまだほとんど解明されておらず、実用上その点が大きな問題点と考えられる。

本研究は、富山県内 27 水系 120 地点において 1972 年夏期に行った理化学的、生物学的な水質調査結果を比較対照し、その両者の関連性と意義について考察を加えたものである。資料数の制約から生物学的な水質階級はここでは os から α ms について検討を加えた。測定した理化学的水質項目は、水温、pH など 16 項目である。

この検討の結果、次のようなことが明らかとなった。

(1) 生物学的な水質階級のそれぞれにおいて、理化学的水質のばらつきは、各水質階級間でかさなる部分があり、したがって汚濁状態の判定にはこの両者の方法の併用が有効であることを示した。

(2) 各理化学的水質項目と生物学的な水質判定の関係について、カイ 2 乗検定の分割表によって有意性を調べたところ、COD-Mn, COD-Cr, D.O., $\text{NH}_4\text{-N}$, $\text{NO}_2\text{-N}$, pH, 透視度について相関が認められた。酸度、アルカリ度、塩素イオン、電導度、全硬度、 $\text{NO}_3\text{-N}$, T.S. については認めがたかった。

(3) 以上の相関の認められた理化学的水質項目については、各生物学的な水質階級にある濃度範囲が該当する可能性の大きいことを示した。たとえば、本調査結果では、COD-Mn の 0~2 mg/l では os, 2~4 mg/l では β ms, 4~7 mg/l では α ms である可能性が大きい。この結果は水質モニタリングなどにおいて一つの判断基準として有用であろう。

(4) 本調査結果では、生物学的、理化学的の両方法の相関において、流量あるいは負荷量の影響は認めがたかったが、この点については今後さらに検討すべき課題である。

層流実験に基づく橋脚前面の局所流の研究

宇 民 正 (京都大学)

〔土木学会論文報告集 第228号, pp. 65~76, 1974年8月〕

橋脚前面に発生する局所的な深掘れについては古くから研究がなされているが、現象が複雑なこともあって主として次元解析的な方法がとられて来っており、洗掘の機構にまで立ち入った解析的研究がなされたのは最近である。こういった機構の面からみれば、橋脚前面に発生する水平軸をもつ馬蹄型渦が局所的な洗掘において重要な役割を果たしており、その発生の機構や強さ、大きさなどを明らかにすることは重要な意味をもっている。本研究はこのような観点から、局所洗掘現象を研究するための第一歩として、平滑な固定床の上に設置された円柱橋脚前面の局所洗掘の機構を、渦の発生に注目しながら実験的かつ解析的に研究したものである。

実験的研究では、層流を用いることによって局所流の現象を単純化し、そのような流れについて三次元的な流速分布を Flow visualization の方法を用いて計測した。

その結果、馬蹄型渦を構成する流体は主流から供給されていること、馬蹄型渦の発生は、主流中に存在していた渦度が橋脚前方の水路床近傍に集中させられた結果発生すること、渦度の集中の機構は Helmholtz の渦度保存則によること、渦軸の位置は橋脚の半径と水深との比の関数として求められることが明らかになった。

解析的研究では、先の実験結果に基づいて三次元的な流れの場について主流と二次流とからなるモデルを設定し、それによってこのような局所流の三次元流速分布を導き出した。橋脚前面の局所流速分布は中川らあるいは吉川らによりすでに導き出されているが、前者は二次流が主流と比べて微少であるという仮定に立っており、また後者は洗掘された場合を考察の対象としており水路床近傍の渦度の集中を無視する結果となっている。いずれにしても馬蹄型渦の近傍では適用しにくいのに対して、本解析で導き出された三次元流速分布は馬蹄型渦による逆流を含む流速分布を表示している。

得られた流速分布を実測値と比較してみた結果、適合性はかなりよいことが認められた。

セメント硬化体、特にエアームタルの収縮応力源とそれによる収縮応力の解析

大 浜 文 彦 (岐阜大学)
森 本 博 昭 (岐阜大学)

[土木学会論文報告集 第 228 号, pp. 77~85, 1974 年 8 月]

現在、土木建築材料として広く用いられているコンクリート、モルタル、あるいはエアームタルなどのセメント硬化体は多くのすぐれた特色をもつ反面、二、三の重大な欠点を有している。その欠点の 1 つとして乾燥収縮によるひびわれ発生の危険性が非常に大きいことが上げられる。

したがってコンクリート構造物を設計するにあたって荷重応力、熱応力の他に収縮応力の算定を行うことは構造物にしばしば見受けられるひびわれ発生のメカニズムの解明に一つの有力な手がかりを与えるものと思われる。しかしながら、この収縮応力の合理的解析過程について述べた研究報告例は数少ない現状にある。

本報告はセメント硬化体の一例としてエアームタル

を取り上げ、これに発生する収縮応力の解析過程について述べたものである。

以下に本報告のあらましを例記する。

(1) セメント硬化体中の収縮ひずみの分布（ここでは収縮応力源と呼ぶことにする）の推定法について述べている。すなわち収縮応力源はセメント硬化体中の湿度分布について湿流に関する拡散方程式を解くことにより推定し、これより収縮応力源を求めることができることを示している。また拡散方程式中のセメント硬化体の湿気拡散率の与え方について若干の検討を行っている。

(2) エアームタルの透湿率、湿気拡散率、湿度と収縮率の関係などを明らかにし、これらのデータをもとにし実際にエアームタル供試体中の収縮応力源の解析を行い、その解析結果をもとにして供試体中の収縮応力の算定を行っている。その結果、弾性理論のみによる解析結果は実状に全くそぐわないものとなるがクリープによる応力緩和を考慮したものは実状と比較的よく合致することを述べている。

複数貯水池を等価貯水池に置き替えるための条件に関する基礎的考察(英文)

竹 内 邦 良 (東京工業大学)

[土木学会論文報告集 第 228 号, pp. 87~97, 1974 年 8 月]

水資源開発の進展に伴い、各流域内の貯水池の数はいよいよ増大し、それに応じて貯水池群を統合的に見た操作・計画立案の必要性と増して来ている。このような貯水池群の統合操作・計画の最適化を図るためには OR の助けを借りる場合が多いが、その際には貯水池の数が解析上のボトルネックとなることは周知のとおりである。

この困難を便宜的に解消するために、二つ以上の貯水池を結合して一つの貯水池として扱う場合がしばしば見られる。このような単純化操作は、たとえば非常に容量の大きい貯水池に隣接する小規模貯水池を無視するといった場合のように、解の実用上の精度に何ら問題を生じないことも少なくないであろう。しかしながら複雑な状況の場合にはどのような単純化が可能であろうか。

本論文は上記の問に答える糸口を探るために議論され

た結果を、一連の定義とそれに基づく定理の形で発表するものである。簡潔を期するため水力発電と洪水調節機能を無視し、水供給のみを水資源の利用目的とする特殊な場合を扱っているため、このままの形で実用に供し得る場合はきわめて限られるであろうが、ここに導入されたアプローチにしたがってより一般的な状況を扱うことにより、実用性のある等価単一貯水池解を導くことも十分可能であると考えられる。

本文は序につづく 3 節よりなり、第 1 節では基本的前提、貯水池機能の定義などを明らかにした。

第 2 節では、定義に基づいて、二つ以上の貯水池が全く等価の機能を有する一つの貯水池（等価単一貯水池）に置き替えられる場合の条件を導いた。

最後に第 3 節では等価単一貯水池に与えられた操作ルールを、もとの複数貯水池のおのおのの操作に分解する方法を導いた。この方法は、与えられた総必要放流量を、個々の貯水池に振分ける空間的貯水量配分の最適ルールの形で定められた。

衝撃三軸装置による飽和粘性土中の 応力伝播に関する研究 (英文)

赤井 浩一 (京都大学)
堀 正幸 (京都大学)
霜上 民生 (建設省)

[土木学会論文報告集 第228号, pp. 99~108, 1974年8月]

本報告は、ある拘束圧を受ける飽和粘性土中を伝播する応力波を rod wave として観ることにより、土のもつ動的諸特性を波動論的立場から考察したものである。パルスの圧力載荷装置としてのショック・チューブに新たに設計製作された大型三軸室(長さ 176 cm, 外径 32.4 cm)を連結し、その中で試料として使われた飽和粘性土 (silty loam) のロッドが圧密完了された時点で波動伝播実験が行われた。土試料内の数点で応力波伝播に伴う軸応力および軸ひずみを測定し、その波速から動的弾性係数を算出し、それらの拘束圧による変化、応力波伝播時における土の応力-ひずみ曲線との関連性、さらに静的三軸試験結果から求めた初期接線弾性係数と比較考察された。またパルス応力波の振幅減衰の傾向がある応力(ひずみ)レベルを境にして全く変化することが観測

結果から理解された。本研究を通じて得られた主たる結論は次の通りである。

(1) rod wave の波速 c_R と有効拘束圧 p_c の関係は、 $c_R = m \cdot p_c^n$ で与えられ実験結果では $n=0.39$ となり、波速は拘束圧の 2/5 乗に比例する。またせん断波速度 c_S は拘束圧と間げき比 e との関係で整理すると、 $c_S = F(e) p_c^{0.25}$ で与えられる。ここに $F(e)$ は間げき比の一次関数である。

(2) rod wave の波速から算出された動的弾性係数 E_d は拘束圧とともに線形に増加し、静的三軸試験で得られる初期接線弾性係数 E_s の 3~6 倍である。

(3) 動的せん断弾性係数 G_d と圧密非排水せん断強度 s_u との比 G_d/s_u は約 800 程度となる。

(4) 応力波伝播時に得られた動的応力-ひずみ曲線の接線弾性係数 E_i は波速から求めた動的弾性係数 E_d と一致する。

(5) ある応力レベル以上のパルス応力を入射応力として与えるときわめて急速に距離と共に減衰するが、ある応力レベルは三軸圧縮試験での q_{max} の 20~25% に相当している。その時のひずみは、静的応力-ひずみ曲線から 0.1% 程度である。この応力(ひずみ)レベル以下で土の弾性的性質が顕著であると考えられる。

地下水の二層流問題の有限要素解析 (英文)

河野 伊一郎 (京都大学)

[土木学会論文報告集 第228号, pp. 109~116, 1974年8月]

海岸地下水の揚水は地盤沈下や地下水の塩水化をひき起こす原因となるが、本研究は後者の地下水の塩水化問題に鑑みて行われたものである。

地下水の二層流問題は、主として海岸地下水における塩水-淡水の境界の位置およびその変動にみられる。本論文は、この地下水の二層流問題を有限要素法を用いて解析する手法を論じ、またその3解析例を示している。

(1) 地下水の二層流境界は上記の海岸地下水における塩水-淡水の境界に典型をみることができ、不圧地下水の自由地下水面はこの二層流境界の特殊な場合であることを証明し、したがって自由地下水面についても二層流境界問題として取り扱いうることを示した。

(2) 次に、一般浸透問題における有限要素解析の手

法を論じ、特に二層流境界面の算定方法ならびに浸出点(境界面が浸透領域外へ出る点)の便宜的な決定手法を示した。

(3) 以上の解析方法に基づいて海岸地下水における二層流問題の3解析例を示した。Ex. 1 では、海岸線で締切ってきた内陸側の淡水貯水池から地下をまわって海へ流出する地下水流について、その塩水-淡水の境界面ならびに浸出点の位置を求めている。さらに、その数値解の精度をチェックするために厳密解との比較を行いよい一致をみている。Ex. 2 では、海岸地下水を揚水した場合にみられる境界面のふくれ上り、いわゆる Upconing 現象について有限要素解析を実施している。また地下注水(かん養)による境界面のおし下げ効果についても結果が示された。Ex. 3 では、不透水基盤を有する不圧帯水層中への塩水くさびの浸入についての解析例を示している。

以上から、海岸地下水にみられる二層流問題の解法としての有限要素法のすぐれた有用性が示された。

故 名誉会員 田 渕 寿 郎 氏 の ご 逝 去 を い た む



名誉会員田渕寿郎さんが、昭和49年7月10日、心不全のため逝去された。享年84歳。田渕さんは名古屋市の名誉市民であるため7月22日、市民会館において名古屋市葬をもって、数多くの参列者を得て厳粛かつ盛大に行われた。

田渕さんは、大正4年、東京帝国大学土木工学科を卒業され、山形県の工手を振り出しとして、内務省の土木技師として、わが国各地の土木工事の施工に関与され、その後中国の上海や北京などの都市計画に寄与されたのであった。

終戦の間もない昭和20年の10月に技監兼施設局長として名古屋市役所に奉職され、後にその復興局長や助役をおつとめになり、昭和33年の4月に市をおやめになったのである。

田渕さんが全国的に有名になられたのは、名古屋市におつとめの13年半の間、とくに助役としての10年の間に、戦争によって焼け野原と化した市の復興にあたり、非常に強い意志と実行力をもって、当時としては、実に思い切った道路計画・平和公園などをはじめ、わが国の都市計画の範となる多くの事業を次々と成功させ、今日

の名古屋市発展の基盤を築かれたことである。

戦後の混乱期に、他の大都市においてはなかなかに行きできなかったことを、敢然遂と行されたということは実に偉大なる業績と申さねばならない。

日本にも著名な土木技術者は数多くあるが、その中でも、震災後の東京の復興を司られた直木倫太郎氏、中国大陸の復興に力を尽くされた宮本武之輔氏などは、その優なるものと申すことができるが、田渕さんは、この2人の先覚者が実行し得なかった部分を立派に実行されたのであって、申すならば、日本の土木技術者のある意味における代表であり、お手本であるといっても過言ではないような気がする。

田渕さんの一生を貫いた大きな特色は清貧に甘んじ、仙人とあだ名され、霞を食って生きているのかとまでいわれた濁りのない生活態度であり、常に大所高所より物ごとを判断し、“田渕構想”として次から次へといろいろな考えを発表され、しかも、ちっとやそっとでは動かされない頑固さがあったことである。

ここに田渕さんのご業績とご遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表わす次第である。

御遺族住所：〒467 名古屋市瑞穂区白羽根町 2-51

(名誉会員 杉戸 清・記)

国際会議 ニュース

(1) Second International Conference on Space Structures

期 日：1975年9月15日～18日

開 催 地：イギリス、ギルフォード、Surrey 大学

論文募集：Analysis, Design & Construction, Architectural Aspects, Experimental Studies に関するもの。

500ワード内の要旨(英語、仏語、独語)を1974年11月14日までに提出。

採用論文の提出は、1975年2月14日まで。

連絡先：Dr. W.J. Supple

Secretary of the Organizing Committee

Second International Conference on Space Structures

Space Structures Research Center
University of Surrey

Guildford, Surrey GU2 5XH, England

(2) Far East Conference on Electric Power Supply Industry

期 日：1975年12月1日～5日

開 催 地：香港

テ ー マ：Generation, Transmission, Distribution System Design & Operations, Management & Administration

参加費：75ドル(同伴者—20ドル)

会議用語：英語

連絡先：The Conference Secretary

CEPSI P.O. Box 13987, Hong Kong